「ことば」をつむぐ

世界が変わる

SWU 昭和女子大学 日文

昭和女子大学 人間文化学部 日本語日本文学科 2024

SHOWA WOMEN'S UNIVERSITY 2024
DEPARTMENT OF JAPANESE LANGUAGE AND LITERATURE

SWU PAST NEXT 100
1920 → 2120
日文

1920年 大正 9年	詩人・人見圓吉ほか有志4名が 私塾「日本女子高等学院」創立 文学科を設ける
1922年 大正11年	私立学校「日本女子高等学院」に昇格 専攻部に文学科を置く
1927年 昭和 2年	財団法人日本女子高等学院を設立 専攻部を「日本女子高等学院本科」と改める
1946年 昭和21年	財団法人東邦学園を設立し、 これを母体とする「日本女子専門学校」を設置 日本女子高等学院本科の課程を日本女子専門学校に引き継ぐ
1949年 昭和24年	新学制によって日本女子専門学校を「昭和女子大学」に改める 学芸学部国文学科を設ける
1951年 昭和26年	財団法人東邦学園を「学校法人昭和女子大学」と改める
1953年 昭和28年	学芸学部を文家政学部に名称変更 国文科を日本文学科と改める
1978年 昭和53年	文家政学部を文学部と家政学部に分離
2003年 平成15年	文学部を人間文化学部に名称変更 日本文学科を日本語日本文学科に名称変更
2020年 令和 2年	日本語日本文学科１００周年を迎える

P1　学びの概要（カリキュラムと資格）
P2　教員の研究と授業紹介
P4　日文の四年間
P6　就職状況とキャリア支援
P7　卒業生の声
P8　コロナ禍後のキャンパスライフ
P9　学科長からのメッセージ

「ことば」の力を将来に活かす

日本語日本文学科での学び

日本の言語文化を学ぶことは、日本文化を理解し、それを伝え発信していくための方法を身につけることです。日本の言語文化に対する深い知識とことばの力を培う過程で、ものごとの本質を見る確かな目と、社会の幅広い分野で活躍できるグローバル・リテラシーを養っていきます。

カリキュラム概説

1年次は基礎科目を中心に学び、２年次からは学びの幅を広げながらコースを選びます。多様な専門科目が用意された中で、担当する専任教員が、コース選択から卒業論文制作にいたるまで、きめ細やかに指導します。

言語コース

ことばの仕組みや変遷を観察する「日本語学」、日本語を母語としない人に日本語を教えるための「日本語教育」。言語文化に対する理解を深めます。

文学コース

奈良から江戸時代の文学を学ぶ「古典文学」、明治から現代の文学を学ぶ「近現代文学」。作品の分析を通して人間の本質を探ります。

コースの学びはプロジェクト科目で実践します。多角的に日本を捉える文化科目や留学プログラムも用意しています。

1年次 日本のことば文学の基礎を学ぶ → **2年次** 学びの幅を広げコースを選択する → **3年次** ゼミに所属し専門性を高める → **4年次** ゼミで鍛えた洞察力・表現力を元に卒業論文を制作する

- 基礎・共通科目
  - 基礎を学ぶ
  - 学びの幅を広げる
- 言語コース
  - 日本語学：ことばの仕組みや変遷を知る
  - 日本語教育：外国人に日本語を教える
  - 言語コースプロジェクト
- 文学コース
  - 古典文学：古きを知る
  - 近現代・児童文学：人間を洞察する
  - 文学コースプロジェクト
- 文化
  - グローバルな視野に立つ文化論
  - 日本の伝統に根差した文化論
  - 海外研修・留学プログラム
  - 出版・編集・創作
- 教職 ／ スキル系
- 卒業論文

分野横断的にも学べます

カリキュラムの詳細（科目一覧）はホームページに掲載されています。

取得できる資格 →
- 高等学校教諭一種(国語・書道)
- 中学校教諭一種(国語)
- 日本語教員(大学認定証)
- 図書館司書・司書教諭
- 博物館学芸員
- 文書情報管理士（2級）
- 昭和女子大学認定アーキビスト(2級)
- 社会福祉主事(任用資格)

教員の研究と授業紹介　学科の研究分野と授業についてピックアップして紹介します。

言語コース

日本語学　嶺田明美 教授 研究紹介

ことばがどのように変化し、なぜその変化が生じるのかを明らかにしたいと思い、今は日本語のゆれを中心に調査研究をしています。日本語が使われていれば、会話・小説・漫画・新聞・看板などすべてが調査対象。アンテナを張ってことばを観察しています。

学生による授業紹介　日本語学Ⅰ（音声と音韻）

どのように言語音を発し、捉えているのかを学びます。その仕組みは一見複雑そうですが、機械の操作マニュアルを読んでいるかのように、体系的に紐解きます。無意識に行っていることを学ぶのは新鮮で面白く、日本語そのものを客観的に見つめる力を養うことができます。

柳美桜里

日本語教育　植松容子 准教授 研究紹介

日本語教育文法（日本語学習者の理解に寄り添い、運用に結びつく文法記述）を研究しています。学習者の誤用、日本語母語話者の使用状況、学習者の母語と日本語との比較、日本語教科書を総合的に検討し、「データの発する声」を聞き取る姿勢を大切にしています。

学生による授業紹介　日本語教育Ⅱ（日本語指導実践（1））

この授業ではこれまでに学んだ日本語教育の知識を活用し、初級の日本語学習者に実際に日本語を教えます。教える文法項目だけでなく語彙の難易度や学習者の背景にも留意する必要があるため、練習用の例文一つを取っても多角的に考える力が養われると思います。

田中琴美

文学コース

古典文学　鵜飼祐江 准教授 研究紹介

『源氏物語』をはじめとする古典文学を、特に「呼称」に着目しながら研究しています。登場人物に用いられる多様な呼称からは、人物像や人間関係、ときには複雑な心情などをも読み解くことができます。変体仮名で残る和歌集や物語などの翻刻活動もしています。

学生による授業紹介　文字から入る古典

百人一首をもとに和歌について学びながら、変体仮名を身につけていきます。難しいようですが、資料と字典を照らし合わせて見れば、次第にくずし字が自然と読めるようになります。古典を書かれたまま読める楽しさ、多様な仮名の取り合わせが成す文字の美しさを感じてください。

鈴木雅弓

近現代文学　吉田昌志 教授 研究紹介

泉鏡花を中心とする、近代の浪漫主義文学について研究しています。とくに力を注いでいるのは、明治30年代、西暦でいうと、1900年前後の時期、近代文学の形成期ですが、美術と文学との関係にも興味があり、授業では夏目漱石や芥川龍之介と美術の問題を話しています。

学生による授業紹介　演習Ⅱ　近現代文学

森鷗外の明治40年代の作品を読んでいます。担当を決め、参考文献を読み、自分の意見をまとめた発表資料を作成します。発表後に、感想質問を含めた討議があるため、自分の発表の良いところ・改善点がわかります。改善点は課題とされ、次回までに調べて提出・配付します。改善点の見直しで作品の理解が深まるのです。

入江有紀

専任教員の分野と主な科目名

言語コース

日本語学	須永哲矢	現代語文法、文法・実例研究
	嶺田明美	音声と音韻、日本語研究とコンピュータ
	宮嵜由美	パソコン日本語学入門、ことばと社会
日本語教育	池田玲子	日本語教育特殊講義
	植松容子	日本語文法論、日本語指導実践
	大場美和子	会話データ分析、社会言語学
	近藤彩	日本語教育入門

文学コース

上代文学	烏谷知子	古典と昔語り、古事記
中古文学	鵜飼祐江	源氏物語、枕草子
中世文学	山本晶子	日本の演劇、宇治拾遺物語
近現代文学	吉田昌志	文学と美術、日本文学入門
	笛木美佳	子どもの風景、遠藤周作
	山田夏樹	世界の中の日本文学、日本文学史（近代）
児童文学	福田委千代	児童文学の近代、子どもとよむ詩
中国文学	市川清史	中国文学

図書館学

図書館学	池田美千絵	図書館概論、児童サービス論
	田中均	生涯学習概論、情報資源組織論

客員教授

黛まどか	俳人
冷泉為人	冷泉家時雨亭文庫理事長

日文の四年間

**言語と文学の学びを土台としてコースを選択し、
4年間を通して「ことば」の力と洞察力を鍛えます。**

言語と文学の基礎を学ぶ

まずは必修科目を中心に、日本語・日本文学の基礎を学びます。言語と文学をバランスよく学ぶことで、新たな興味を見出すこともあります。2年間、幅広く学び、時には迷いながら、じっくりと専門分野を決めます。

コースの選択は２年次後期

コースを選択する

2年次の終わりにコースを選択します。ゼミ説明会では、ゼミに所属する３・４年生の先輩から話を聞くことができます。コース選択の際にはゼミ希望調査が行われ、学びたい分野を選ぶことができます。

発表と質疑応答で
プレゼン力が磨かれます

ゼミに所属 専門性を高める

ゼミに所属して、興味のある分野の学びを深化させていきます。各自の持つ興味・関心をもとに設定したテーマについて調査する・まとめる・発表することで、ものごとを論理的に検討するための基礎を身につけます。

４年間の学びの集大成

卒業論文を制作する

4年間の集大成である卒業論文の執筆に向け、研究を深めます。ゼミで鍛えた洞察力、表現力をもとにテーマを定め、問いを立て、多角的に検討しながら制作します。

1年次 **2年次** **3年次** **4年次**

図書館を利用する

学びを進める上で積極的に活用したいのが図書館です。図書約57万冊を所蔵しており、特に近代文学に関する図書・雑誌・新聞などを集めた「近代文庫」には貴重資料が充実しています。

学びの幅を広げる

興味がある分野の選択科目を履修して、学びの可能性を広げます。また、日文・歴文クロスオーバープログラム科目を履修することで、文学・歴史・文化を総体的に捉えることが可能です。

海外留学の時期は
２年次を選ぶ人が
多いです

海外にはばたく

留学では、語学力を高めるだけではなく、自文化と他文化を客観的に見つめ直すきっかけになります。また、キャンパスの隣にはテンプル大学ジャパンキャンパス(TUJ)があり、本学キャンパス内で活発な交流をすることができます。

文化を多角的に捉え直す

文化に関する科目も選択必修です。言語であれ文学であれ、それらは日本文化と密接に関連しています。専門分野を文化科目の観点から捉え直すことで、新たな気付きが得られます。

学び⇄実践 プロジェクト科目

日文の学びが社会にどのように貢献できるかを考え、実践する科目です。古典作品を広く紹介するための教材開発を試みるプロジェクトも発足しています。失敗を恐れずに課題解決に取り組む姿勢が培われます。

仲間と協力しあい
成果を見える形に

▼欄外詳説
文字は細かいけど重要！

1・２年次は言語と文学の基礎を幅広く学びます。「入学時には文学に興味を持っていたが、日本語学にも関心を持つようになった」など、学びを通して新たな興味に出会うこともあります。また、言語・文学の学びに加えて文化科目（グローバルな視野に立つ文化論（「サブカルチャー論」等）、日本の伝統に根差した文化論（「歌ことば歌ごころ」等））を履修することで、視野を広げていきます。日文の学びと深く関連する歴史文化学科の授業を履修することができる日文・歴文クロスオーバープログラムという学科横断型プログラムなど、多様な学びの機会があります。物事を多角的に検討し、より深く理解することが可能になります。2年間、基礎を固めつつ視野を広げて自分の興味を見極め、2年次後期にコースを選択します。

国内にいながらにして、異文化と接するチャンスが多いのも特徴的です。短期・長期の留学はもちろん、世田谷キャンパスにおいても、学内外の留学生との交流が盛んに行われています。本学の敷地内にテンプル大学ジャパンキャンパス（TUJ）がありますので、日文の学生とTUJの学生が協働で交流活動を企画したり、互いにそれぞれの授業に参加したりして、共に学んでいます。また、日文の学びを通して、文系ならではのデータサイエンスの素養を身につけることができます。ことばに関するデータを収集・分析、そこから見える事実を多角的に検討し、何が言えるかを見極めます。これはまさに、データを活用して有益な情報へとつなげていく文系ならではのデータサイエンスです。このように、日文の学びを通して、これからの社会に必要な力を鍛えることができます。

３・４年次はゼミに所属して、仲間と切磋琢磨しながら専門を探究します。また、日文の学びをもとにどのような社会貢献が可能かを考え実践する「プロジェクト科目」もあります。プロジェクトを通して課題解決に取り組みながら社会に様々な形で発信します。社会の隠れたニーズを探り出し、それを日文の学びで解決するという作業は、思った以上に困難で、初めはなかなかうまくいきません。しかし、その壁をどう乗り越えるか仲間とともに試行錯誤する、これこそが社会で生きていくためのかけがえのない力となっていくのです。日本語日本文学科での4年間を通して得られた学びは、卒業後のキャリアを支える確実な礎となります。

① キャリアの幅を広げる資格取得

教員免許は国語教員（中学、高校）とあわせて書道教員免許（高校）も取得できます。また、所定の単位を修得すると、大学認定の日本語教員認定証が取得できます。その他にも図書館司書や司書教諭、学芸員に加え、文書情報管理士（2級）が取得できます。2022年度からは新たに、公文書を扱うことのできるアーキビスト課程の履修が可能になりました。所定の単位を修得すると、昭和女子大学認定アーキビスト（2級）の資格が取得できます。公務員のキャリアとして有効な資格です。多様な資格取得の可能性が、キャリア選択の幅を広げます。

② 学生が企画・運営する活動

日文では学生主体の活動が盛んです。例えば、プロジェクト科目の一つである「コーパス化プロジェクト」では、本学が所蔵する与謝野晶子書簡をデータ化し、言語学や文学研究に役立つ「コーパス」として利用できるようにしています。その他にも日文の学生のためのキャリア支援を考える日文キャリア委員（p.6参照）、TUJの学生と日文の学生との交流を推進するためのTUJ交流企画運営委員などがあります。

③ 教室の枠を超えた学び

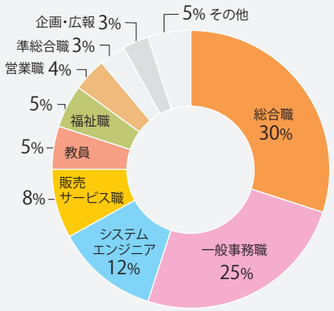
海外の大学とオンラインでつなぎ、教室の枠を超えた学びを実践しています。「中・短編小説を読む」ではフィレンツェ大学と合同で一つの文学作品を読んでディスカッションを実施しました。また、「日本語文法論」では北京郵電大学と合同で、日本語学習者の誤用から日本語を考える授業を行いました。海外の日本語学習者とのアカデミックな交流を通し、多角的な思考力を鍛えます。

日文の四年間 もっと詳しく

「ことば」の力が切り拓く未来

多様な職種で活かされる日文での学び

日文の卒業生は在学中に学んだことを活かして、さまざまな分野で活躍しています。国語や書道の教員、日本語教師などは専門性が直接進路に結びついています。一般企業の総合職やSEなどの分野においても日文で磨かれた「ことばの力」「コミュニケーション力」「洞察力」は求められています。自国の文化を理解する人材は国際社会でも必要とされています。
卒業生にとって、日文での学びが実社会で生きる力となっています。



就職先の一例

総合職▶イオンリテール、兼松、光電製作所、城南信用金庫、常陽銀行、地方競馬全国協会、トランスコスモス、日本カストディ銀行　準総合職▶日本郵便　システムエンジニア▶アルファシステムズ、大塚商会、クレスコ、富士ソフト　一般事務職▶オリコオートリース、ダイキン・コンシューマ・マーケティング、マンパワーグループ　サービス職▶クリナップ　教員▶東京都、千葉県、埼玉県、栃木県　公務員▶警視庁　進学▶お茶の水女子大学大学院、昭和女子大学大学院

※データは2022年度分

日文ならではのキャリア・サポート

大学全体のキャリア支援に加え、学科の特性に沿ったサポート講座を実施

就職活動だけでなく将来にわたって役立つスキルを学べる日文スキル系科目*1をはじめ、一般企業志望者向けサポート講座*2、教員志望者向けサポート講座*3など、学生の学年・状況に応じた就職支援を行っています。

学生主催キャリア支援講座は、学生自らが実行委員をつとめ、夏の「内定者座談会」、春の「OG・外部講師による講座」を主催して６年目となりました。自分たちで企画・運営をすることで、コミュニケーション力や課題解決力が鍛えられます。

2022年度には文学部卒の社会人を招き、学科主催メンターカフェを開催しました。メンターとの対話を通して「自分の考えを「ことば」として他者に伝える力」が鍛えられているという日文生の強みに気付き、キャリア意識の伸長のみならず、専門の学びをとらえ直す機会ともなりました。

4年生やＯＧを招いた講座を重ねる中で、日文で自分たちが学び得たことは何か、それらをどう就職活動で発揮するか、社会人として専門の学びをいかに活かすか、を改めて考えます。自身のキャリア形成について早くから意識を向けるようになります。

＊1 日文スキル系科目
「スピーチトレーニング各論」「文章トレーニング各論」「ICT機器の操作」など、就職活動だけでなく将来にわたって役立つスキルを学べる科目の他に、学年の状況に応じてプロの外部講師を招く講座も開いています。

＊2 一般企業志望者向けサポート講座
一般企業をめざす学生には、３年次に、企業の入社試験で使われるSPI能力試験の対策講座、面接を想定した自己表現を磨く講座、内定を得た４年生の就職活動体験を聞く機会などを設け、具体的なアプローチの方法を学べるように支援しています。

＊3 教員志望者向けサポート講座
国語教員や日本語教員をめざす学生には、教育現場にいる卒業生を招いて教職座談会を開き、在学中の勉強方法、実習や採用試験の対策の他、現場の具体的な体験を聞く機会を設けています。３年の学年末には、目前に迫った教育実習の対策講座も実施しています。

カラフルに活躍する十二名の卒業生の声

総勢9,392名
（開学以来の日文の卒業生数）

歌人
朝日新聞歌壇選者
歌誌「かりん」発行
馬場あき子

私がいま一番楽しくやっている仕事は選歌です。朝日新聞歌壇には毎週2500通くらいの投稿があり、短歌を通して「いま」を生きる人の心にじかにふれることができます。戦後というきびしい時代の中で日本文学を志した私には、古典和歌や近代以降の詩歌のことばの美しさ、やさしさ、簡素で奥深い表現への憧れがあり、短歌を作るようになりました。皆さんの知る日本語は美しいですか。生きて愛し、時に寂しく、時に哀しい心を伝えることばのふしぎを発見したいと思いませんか。（1948年卒）

國學院大學栃木中学校
国語科常勤講師
稲川晶子

ゼミの先生が研究について楽しそうに語ってくださることや、先生の発表を拝聴していく中で、教員自身が楽しむことこそが生徒の学ぶ意欲を刺激することを実感しました。（2021年学部卒、2023年大学院修了／専攻：近代文学）

世田谷文学館
学芸員・学芸部部長補佐
中垣理子

専門分野を生かし、文学館で学芸員として勤務しています。（1989年卒／専攻：近代文学）

日本マクドナルド
遠矢桃子

日本語学や文学を学ぶうちに語彙力が身に付き、仕事での仲間やお客様との会話において活かされています。（2022年卒／専攻：日本語学）

日立システムズ
福積愛

日本語教育の学びを通して海外へ視野が広がり、世界を繋ぐIT企業に就職しました。（2022年卒／専攻：日本語教育）

毎日新聞社
教育事業室
教育事業統括
木村葉子

1990年に記者職で入社以来、半数近くの年月を子ども向け媒体に携わってきました。21年4月から、創刊85年を迎え国内で最も長い歴史を持つ、毎日小学生新聞の編集長に就任しました。児童文学を専攻したことや、教員、司書の資格を取得したことなどが結実し、今に至っています。記者志望者が周囲にいない中、手を差し伸べてくださったのが新聞社出身の先生方でした。作文指導や時事問題対策などをご指導いただきました。児童文学専攻者は、社内では少数派。同じ分野を取材する記者がいなかったことや、好きな分野を学び続け、作家らとのつながりを大切にした結果、社内外で「子どもの本の専門家」として認められるようになりました。資格取得のための学びは、NIE（教育に新聞を）活動や、現在の仕事に生きています。また、昭和女子大学で知らず知らずに身につけた礼儀作法や言葉遣い、人付き合いの仕方などは、生き方の礎になっています。（1990年卒／専攻：児童文学）

東京国税局
早川絵梨

在学中にことばの仕組みや表現方法を身につけることができました。法律の内容や解釈は難しいですが、わかりやすいことばに言い換える等して納税者の方に理解してもらえるよう努めています。（2013年卒／専攻：日本語学）

光文社
VERY編集部
石川穂乃実

人や作品と真摯に向き合う力を生かして編集者として働いています。（2017年卒／専攻：近代文学）

清水建設
服部奈桜

人々の生活を支え豊かにしたいという思いから建設業界を志望しました。日文で培った深く考える力や文章力は、仕事をする上で大変役に立っています。（2022年卒／専攻：児童文学）

国立障害者リハビリテーションセンター学院
言語聴覚学科へ進学
刑部なつみ

大学での音声学の学びを医療の場で活かしたいと考え、言語聴覚士になるため勉強を続けています。日文は将来の選択肢を狭めることなく様々なことを学んでいける学科だと思います。（2023年卒／専攻：日本語学）

新卒

三菱ケミカル物流
山内奈穂

様々な業界でのインターンシップを経て、生活を支える物流の役割に気付きました。（2021年卒／専攻：児童文学）

長沼スクール東京日本語学校
専任講師
伊藤美和子

日本語教師として、さまざまな国から来た留学生に日本語を教えています。日本語学で培ったことばを分析する力など、日文での学びは今も大変役立っています。（2009年卒／専攻：日本語学）

卒業生の声 続きはこちら

コロナ禍後のキャンパスライフ

対面授業に戻り、キャンパスが学生で賑わうようになりました。ハロウィン企画や秋桜祭では手話サークルとして手話ダンスを披露し、留学生との夏祭り企画にも参加しました。多様な人々との交流で成長を感じています。（岩井実咲）

様々な制約がなくなったことにより、昭和ボストンで実施される研修やTUJとの交流などに対して前向きに考えることができるようになりました。（小宮凪紗）

私はオンライン授業を体験したことで対面授業の良さを身をもって感じました。オンライン授業では相手の表情が見えず、あいづちもなく、意見が言えないこともありました。しかし、対面では、聞き手の存在を意識できるので、その場に応じた意見のやりとりができます。相手の反応を見ながら、自分の意見や考えを言語化することは大切だと思います。これができる対面授業に戻って良かったと思っています。（大間眞由紀）

オープンキャンパス

学科説明、体験授業の他、受験生が聞きたい情報を短時間でコンパクトにお伝えします。在学生と気軽に話せるブースもあります。

開催日程

- 06/18(日)
- 07/23(日)
- 08/19(土)
- 08/20(日)

最新情報はウェブページでご確認ください。※日時・場所とも変更の可能性があります。

第11回 日文公開講座

「話し合い」を解体する

講師：寅丸真澄教授（早稲田大学）
　　大場美和子准教授（昭和女子大学）
日時：10/28(土)13:10〜14:40
会場：昭和女子大学8号館6階
　　オーロラホール[6L01]

※オンライン配信もあります。
※日時・会場ともに変更の可能性があります。
　最新情報はウェブページでご確認ください。

遙か昔、日本人が文字を獲得して以来、多くの書物や手紙などが書かれてきました。我々もそれを、いろいろな形で目にできます。いつの時代の人々も、さまざまな記録をし、また、現代の我々と同じように、季節を感じ、人を恋しいと思い、人との別れを悲しんできたのです。一方で、新しい概念が生まれ、技術が進歩し、それに伴って我々の感覚や使うことばも日々変化してきました。

我々が、ことばを使わない日はありません。読む・書く・話す・聞く以外にも、たとえば、考え、受けとめるときに、頭の中ではことばが使われているのではないでしょうか。どのような場面においても必要なもの、それがことばなのです。

人はひとりひとりが違う存在で、家族・地域をはじめ、それぞれが異なる文化・背景を持っています。国を越えた大きな単位の異文化の人との交流も、今や、ふつうのことです。お互いを理解する力を持たなければ人との交流はなり立たず、ことばだけ使えればいいというものではありません。そこにはものごとを深くとらえる力と誠意ある表現が必要でしょう。

日本語日本文学科では、言語や文学を学ぶことを通して、洞察力や理解力を深め、人間の本質とは何かを常に問い続けます。変わらないことと変わること、同質と異質など、事象現象の両側面をきちんと理解し、あふれる情報にふりまわされず、しっかりとした考えに裏付けされたことばで人に伝える力を持ちたい、そのような人の入学をお待ちしています。

日本語日本文学科 学科長
籟田昭美

https://swuhp.swu.ac.jp/university/nichibun

日文での学びについて伝えたいことがもっとあります。
日文ウェブサイトをご覧ください。

昭和女子大学 人間文化学部 日本語日本文学科
SHOWA WOMEN'S UNIVERSITY Department of Japanese Language and Literature

入試に関するお問い合せ　アドミッションセンター　Phone 03-3411-5154　E-mail spass@swu.ac.jp
〒154-8533 東京都世田谷区太子堂1-7-57

[DESIGN 鷲野宏デザイン事務所]